

各位

上場会社名	株式会社 サンエー化研
代表者	代表取締役社長 山田 次夫
(コード番号)	4234)
問合せ先責任者	取締役経理部長兼経営企画部長 藤岡 貞章
(TEL)	03-3241-5702)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年11月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	38,300	100	200	80	7.11
今回発表予想(B)	33,350	△1,740	△1,625	△1,980	△177.17
増減額(B-A)	△4,950	△1,840	△1,825	△2,060	――
増減率(%)	△12.9	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	37,298	147	208	377	33.33

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	35,500	110	210	85	7.55
今回発表予想(B)	30,450	△1,745	△1,625	△1,975	△176.72
増減額(B-A)	△5,050	△1,855	△1,835	△2,060	――
増減率(%)	△14.2	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	34,285	118	178	353	31.27

修正の理由

米国に端を発した金融危機が、世界的に実体経済へ波及し、わが国の景気も急速に悪化しております。当社グループを取り巻く事業環境も、同様に悪化してきており、先の見通しは厳しさを増しております。

軽包装部門の売上は、比較的堅調に推移しておりましたが、食品包装分野では、中国からの輸入食品問題による冷凍食品離れからの売上回復が遅れていることや、昨今の雇用不安等による消費者の生活防衛意識が高まったことにより、個人消費が低迷していることから、今後とも厳しい状況が予想されております。

産業資材部門の売上高も比較的堅調に推移しておりましたが、建築、自動車、物流等、多くの業界で減産や取扱量の減少が見られていることから、当社の売上高もこれに呼応して減少することが予想されます。

機能性材料部門では、液晶テレビの販売不振による液晶パネルメーカーの大幅な減産は、当初の予想を遥かに超えるものであり、昨年11月以降、急速に売上を減少させることとなりました。この状況は、当面続くことが予想されており、今回同部門の売上見込みを大幅に減少させることとなりました。

各部門別の連結売上高予想の修正額は以下のとおりです。

軽包装部門	当初予想	16,852百万円	今回予想	15,855百万円	減少額	997百万円
産業資材部門	当初予想	8,798百万円	今回予想	8,344百万円	減少額	454百万円
機能性材料部門	当初予想	11,740百万円	今回予想	8,490百万円	減少額	3,250百万円
その他	当初予想	910百万円	今回予想	661百万円	減少額	249百万円

当社の製品は、石油化学製品(主にポリエチレン)を原材料としているため、原油価格の影響を受けやすくなっております。昨年10月以降原油価格は、下がってきておりますが、原材料価格に反映するには時間差があるため、いまだ原材料費は高止まりしております。このため、売上高に占める売上原価率は94.2%(当第3四半期連結累計期間ベース)と非常に高くなっており、営業利益及び経常利益は売上高の減少により、前回予想を大幅に下回る見通しであります。

当期純利益につきましては、世界経済の先行きが不透明になっていることから、掛川工場の収益性評価を見直し減損損失630百万円を特別損失として計上したことや、平成21年1月28日付け「タック化成株式会社に対する債権の取立不能のおそれに関するお知らせ」にて発表しましたとおり、取引先タック化成株式会社が民事再生法申し立てを行ったことにより、貸倒引当金繰入額463百万円を特別損失として計上した影響を受け、予想を下回る見通しとなりました。

以上